

目的に合わせて要約する

「くらしの中の和と洋」

4年2組

1 単元の目標と評価規準

目標：自分の考える和室と洋室のよさについて、書かれていることの要約を用いて紹介することができる。

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
① 比較や分類の仕方を理解している。	① 目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約している。	① すすんで文章を要約し、学習の見通しをもって、まとめたことを伝え合おうとしている。

2 教材について

終 わ り	中											始 め		
	違いとそれによるよさ													
	Ⅱ 部屋の使い方				Ⅰ 過ごし方									
⑮	⑭	⑬	⑫	⑪	⑩	⑨	⑧	⑦	⑥	⑤	④	③	②	①
よびかけ	まとめ	答:和	答:洋	話題	洋のよさ	答え	和のよさ	答:和	問い	説明	話題	説明 和室と 洋室の	(問い)	話題 提示
日本では、くらしの基本である「衣食住」のどれにも、「和」と「洋」が入り交じっている。 ここでは、「住」において、日本のくらしの中で「和」と「洋」それぞれのよさがどのように生かされているか、考えてみる。 和室と洋室の最も大きな違いは、ゆかの仕上げ方とそこに置かれる家具であり、このちがいが、それぞれの部屋での過ごし方や部屋の使い方の差を生み出す。 まず、それぞれの部屋の中で「<u>過ごす</u>」の<u>こと</u>を考えてみる。 和室では、たたみの上に直接座り、洋室では、いすにこしかけて座るのがふつうだ。 和室、洋室での過ごし方には、それぞれどんな<u>よさ</u>があるのでしょうか。 和室のたたみの上では、いろいろなしせいをとることができる（よさがある）。 人と人との間かくが自由に変えられるの④<u>たたみのよさ</u>である。 洋室で使ういすは、形が工夫されているので、長時間同じしせいですわっていても、つかれが少なくてすむ（よさがある）。 いすにすわっているじょうたいから、次の動作にうつるのがかん単であること⑥、<u>いすのよさ</u>である。 次に、<u>部屋の使い方</u>という点から、それぞれにどんなよさがあるか考えてみる。 洋室は、その部屋で何をするかがはつきりしていて、そのために<u>使いやす</u>くくられている。 これに対して、和室は、一つの部屋をいろいろな目的に使うことができるという<u>よさ</u>がある。 <u>このように</u>、和室と洋室には、それぞれよさがあり、わたしたちは、両方のよさを取り入れてくらししている。 「衣」や「食」についても、くらしの中で「和」と「洋」それぞれのよさがどのよう に生かされているか、考えることができるだろう。														

本教材は、暮らしの中の「住」における「和」と「洋」の違いやそれぞれのよさを、「過ごし方」と「使い方」という2つの観点に沿って対比しながら説明した文章である。そのため、比較を通して、どのような場面で、和室、洋室のそれぞれのよさを生かせるか、自分の生活と結び付けながら考えることができるようになっている。

3 単元計画(全7時間)

次	時	学習目標	学習活動
第一次	1	和と洋について、興味をもち、初発の感想を書くことができる。	○ 挿絵を分類する「仲間分けクイズ」を行い、教材文に興味をもつ。 ○ 範読を聞き、内容の大体を知る。 ○ 和室と洋室のどちらが好きか、初発の感想を書く。
第二次	2	「和室」と「洋室」に着目し、文章をまとまりに分けることができる。	○ 感想を交流する。 ○ 「和室」と「洋室」が書かれている段落を見付ける。(音読、色分け) ○ 文章をまとまりに分ける。
	3	文章の構成を捉えることができる。	○ 問いと答え、接続詞に着目し、はじめ、中、終わりに分ける。 ○ 中を2つのまとまりに分ける。 ○ 段落ごとに小見出しを付ける。
	4	文章の内容を捉えることができる。	○ 「和室」と「洋室」それぞれの過ごし方、使い方のよさを要約し、表にまとめる。
第三次	5 2組 本時	生活と結び付けて、「和室」と「洋室」それぞれのよさを生かす場面を考えることができる。	○ どのよさを生かせるか、経験が書かれたカードを表に分類する。 ○ 自分の生活の中で、和室と洋室のよさを活用できる場면을挙げ、紹介文を書く。
	6	文章の中から選んだ部分の要約を見直し、紹介文を書くことができる。	○ 紹介したい生活経験に合わせて、要約を推敲する。 ○ 紹介文を完成させる。
	7 1組 本時	要約の仕方についてそれぞれの考え方の違いに気づき、考えを広げることができる。	○ 紹介文の生活経験の部分を読み上げ、文章のどこを選んだのか考え合う。 ○ 紹介文全文を読み合い、生活経験や要約の相違点を見付け合う。

4 全力参加のための手立て

クイズ、選択肢

考えることや視点を焦点化し、楽しみながら学習に参加する。

→文の内容理解

分類

内容ごとに段落を色分けしたり、表にまとめたりして、書かれている内容を整理する。

→文の構造理解

5 本時の展開(全7時間中の第5時)2組

本時の目標:「和室」と「洋室」それぞれのよさを生かせる生活の場面を考えることができる。

時間	学習活動	・指導上の工夫 ▲個別の支援	評価規準 (評価方法)
導入 2分	1 前時までの学習を振り返る。 T:和室、洋室のそれぞれのよさを、隣の人と伝え合ひましょう。	・和室、洋室のよさを、前時のワークシートで確認する。(ペア) ・よさを表に表す。	
	部屋のよさを、どんなときに生かせるか考え、紹介しよう。		
展開1 20分	2 和室、洋室のよさが生かせる場面を考える。 T:この中で、洋室の過ごし方のよさが生かせるのは、どれ? C:テレビで映画を見たいとき。 C:長時間同じ姿勢で座っていてもつかれが少ないというよさにつながる。 C:腰が痛い家族がいるときも当てはまりそう。 T:これらのよさを生かせる場面を短冊に書きましょう。 C:集中して宿題がしたいとき。 C:和室でやると、寝転んでしまうから、椅子と机でしっかりと勉強したい。 C:みんなの短冊を見ると、洋室のよさが生かせる場面がたくさんあることが分かったよ。 T:短冊の場所はこれでいいですか。 C:「集中して宿題がしたい。」は、洋室の使い方のよさだと思う。	【しかけ:分類する】 ・全体で短冊を動かし、次のペア活動の見通しがもてるようにする。 ・和室、洋室のよさを根拠に選んでいるか、確認する。 ・机間指導で、よさと生活場面のつながりを確かめる。 ▲思いつかないペアは、自分の生活を振り返ったり、理想の部屋を考えたりするよう促す。 ▲それでも思いつかないペアは、具体的な場면을提示し、どのよさを生かせるか問いかける。 ・よさと生活場面が適切に結びついているか、という視点がもてるよう、繰り返し確認する。	 伝えたい
展開2 20分	3 紹介文を書くという見通しをもち、それぞれのよさを生かせる生活場面を考える。(個人) C:和室の過ごしやすさのよさについて書こうかな。 C:正月に親戚が集まるから、そのときによさが生かせそう。	・児童が見通しをもてるように、紹介文の例を示す。 ▲よさを生かせる生活場面を思いつかない児童は、短冊から選んでもよいことを伝える。	和室や洋室のよさについて、生活の場面と結び付けて考えている。(観察、ノート)

	4 よさの要約文と共に、紹介文を書く。 C:要約は、この前みんなで作ったものを使おう。	▲よさと生活場面がつながっていない児童には、具体的に場面を思い出し、よさと合致しているか声をかける。 ・前時で作った要約文と、よさを生かせる場面を並べて記述する。 ・生活場面に合わせた要約の推敲などは次時に行う。	 考えたい
まとめ 3分	5 学習を振り返る。	・短冊の生活場面とよさの関係をペアで説明する。	

6 板書計画

◆紹介文を書くこう》 ◆私は、○室のよさについて説明します。 ★(要約文) ◎私が家族と過ごすなら、 ◆だから、私は○室がおすすめです。	部屋の使い方		部屋の中での過ごし方				めあて 部屋のよさを、どんなときに生かせるか 分けよう。 くらしのなかの「和」と「洋」
	◎	★一つの部屋をいろいろな目的に使うことができる。	◎十人の親戚が来る	★人と人との間かくが自由に変えられる。	◎	★いろいろな姿勢をとることができる。	
	◎	★その部屋で何をすることがはつきりしていて、それに合った家具が置かれている。	◎腰が痛い家族がいる。	★次の動作に移るのが簡単。	◎テレビで映画鑑賞。	★長時間、同じ姿勢で座っていても疲れが少ない。	

◎に入りそうな言葉…「好きな姿勢でゲームがしたい。」「お客さんが来て、食事をし、泊まることになった。」
「集中して宿題がしたい。」 など

7 授業観察の視点

- (1) 本時のねらいが達成されていたか。そのための指導法が考えられていたか。
- (2) 児童が全力参加する姿が見られていたか。
- (3) 分かりやすく、考えを深めたり広げたりするために有効な発問であったか。